



様式第4号（第6条関係）

令和4年4月22日

富士見市議会議長 齊藤 隆浩 様

会 派 名 草 の 根
代 表 今 成 優 太

行政視察・研修（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察・研修（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

- 1 期 間 令和4年4月11日～令和4年4月12日（1泊2日）
- 2 参加者名 勝山 祥
- 3 場所（行政視察地・研修場所）
全国市町村国際文化研修所
滋賀県大津市唐崎2-13-1
- 4 調査・研修概要
令和4年度市町村議会議員特別セミナー

講義1

地方行政と政策デザイン

福井県知事

杉本 達治 氏

現職福井県知事から講義を受けた。総務省での経験を活かし、全て根拠、事実、数字に基づいて政策を続けている。新型コロナウイルスについて県民にわかりやすく情報を提供し「感染はマスクなしが9割」や「モデルナ、半分でもいいんだ。（それなら・・・）」など理解しやすいことを数字で根拠を示しながら訴えている。人口の減少、それに伴う税収の減についても数字に基づいた解決を続けていることが印象的である。こうした考え方を取り入れた質問や考え方を取り入

れていきたい。

講義2

少子化問題の日本の特徴

中央大学文学部社会学専攻 教授

山田 昌弘 氏

少子高齢化になった原因、課題を細かく聞くことができた。経済状況や異性に対する意識の変化も大きかったが、何よりも親も含めた男性の収入で家計を支えるなどの意識や、女性を支える仕組みづくりの脆弱さが原因でないかとの指摘である。男女共同参画の推進、多様な家族形態を認める、社会保障による下支えを包括的に進めていくことが重要だと理解した。このまま進むと格差が拡大し少子化が進むことは決定的なので、具体的な取り組みを見つけ提案していきたい。

講義3

行動するSDGs～「ごみ」からのアプローチ

京都大学大学院地球環境学堂 准教授

浅利 美鈴 氏

ゴミの排出量から年を追っての削減量、世界の流れを含めた法律改正を聞くことができた。京都市、京都大学での実践を写真とともに説明されたので、理解が進みやすい。近年のSDGsなどの周知により、ゴミの削減、リサイクルは進んでいるが、そもそも供給されるプラスチックなどの量が多すぎる。元となる考え方を変え、みんなが専門家のような高みを目指すのではなく、一段でも上がることが大きなうねりを生み出せる。本市もゼロカーボンシティ宣言をしたので、行動するSDGsを模索したい。

講義4

歴史的資源を活用した観光まちづくり

バリューマネジメント株式会社 代表取締役

他力野 淳 氏

「一度失ったものは蘇らない」このことを冒頭に述べられた。現在は民間や、国、行政が管理する歴史遺産があるが、どこもこのままでは管理費が足りなくなり失われかねない。海外では歴史を重ねると不動産価値は上がるが、木造建築の

多い日本では価値は下がっていく。しかし、木造建築は必ず元に戻せるところが利点とも言える。建物をただ保存活用するのではなく、建物の歴史背景や建築目的を丁寧に考慮していかないとまちの中で生きたものにならないという指摘が印象深かった。観光は一つの突破口に過ぎず、稼ぐ力をそれぞれが自ら取り戻し、作り出せばまちは甦る。富士見市に何が取り入れられるのかを考えたい。

まとめ

新型コロナウイルスの流行を経て変わりつつある世界、そして日本。様々な分野で新たな視点を持って行動する方からの意見、提案、解説はどれも説得力があった。共通していたことは、行動を伴っていたことだと感じた。机上の空論ではなく、行動したことで新たな課題や発見があることをはっきりと認識できた。ウクライナの事もあり、再び大きく変わるものもあるが、進行している諸課題には、積極的に動いて解決する方法が本市にもあると気づかされた。今後の議会活動に生かしていきたい。